



ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No.266

2019年

1~2月号

2019年の年頭に当たって

会長 間野吉幸

明けましておめでとうございます。

2019年の年頭に当たり一言ご挨拶申し上げます。今年は3月で47周年を迎え、50周年まで余すところ3年となります。50周年に向けて会の活動を更に活発化したいと考えます。

会の基本活動である探鳥会は、定例探鳥会以外の遠出探鳥会では色々な所に出向き多様な野鳥との出会いがありました。特に目的の野鳥との遭遇は探鳥の醍醐味であり、その感動は得難いものであり昨年も沢山実感しました。

啓発活動は昨年も力を注いで参りました。JBF2018、市民のチカラまつり、Enjoy手賀沼などのイベントに参加し、野鳥とのふれあいや手賀沼の野鳥を紹介し大変好評を得ました。その結果新しい会員を獲得致しました。また市民向けの各種探鳥会の企画・指導や児童向け講話、手賀沼の水鳥の推移のパネル提示など啓発活動に力を注ぎました。

毎年定点観察をしております手賀沼の水鳥の総個体数は、昨年18年振りに10,000羽の大台乗りを期待しましたが36羽届きませんでした。しかし手賀沼に水鳥が増加していることは、大変喜ばしいことでもあります。地道な定点観察活動など調査活動は会の財産であります。手賀沼周辺の環境は野鳥を通しての変化を知ることが出来大切なデータになっております。これらの調査研究活動や鳥便りなどデータベースの構築は地味な活動ですが今後も継続して行きたいと考えています。

今年は平成から新たな元号に変わる年です。会の活動は常に変化する時代に向き合い進化しなければなりません。私は会員間の親睦や対外交流を密にし、会の目的達成に向け、新たな時代に対応した活動が大切と考えます。

今年もよろしくお願ひ致します。

行 事 案 内

1 月手賀沼探鳥会

期 日 1 月 13 日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前 9 時
案 内 本年最初の定例探鳥会です。冬鳥の最盛期で、手賀沼には、ミコアイサなどの水鳥が、そろっています。昨年見られたトモエガモがまた見られるか楽しみです。猛禽類は、ミサゴ、ノスリ、チュウヒ、ハヤブサなどが、葦原では、オオジュリンが認められるでしょう。昨年 1 月の探鳥会では、49 種が認められましたが、本年は、多くの皆さんの目で、多くの鳥が認められることを期待しましょう。

解 散 正午
担 当 船津

2 月手賀沼探鳥会

期 日 2 月 10 日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前 9 時
案 内 最も寒さが厳しい時期ですが、冬鳥観察のベストシーズンです。昨年の冬はトモエガモが群れで入りましたが、今年はどうでしょうか？ 沢山のカモやカイツブリ類を期待しましょう。遊歩道では葦原のオオジュリン、ベニマシコ、アリスイなどの小鳥たち、上空にはミサゴ、チュウヒ、ハヤブサなどの猛禽類、農耕地ではタゲリも見られるとうれいすね。昨年は 45 種でしたが、50 種 (2010 年 2 月に記録) を目標に鳥たちを探してみましよう。防寒対策を忘れないように。

解 散 正午
担 当 桑森

1 月、2 月ビオトープ調査

期 日 1 月 10 日(木) 雨天延期
2 月 7 日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ビオトープ 午前 9 時 30 分
案 内 昨年 1 月は留鳥のほかに冬鳥のアオジ、オオジュリン、ジョウビタキ、ノスリ等が見られ、2 月にはクロハラアジサシ、チョウゲンボウ、ミサゴも見られました。1 月は 27 種、2 月は 28 種の野鳥を観察しました。虫はカマキリの卵塊、小動物ではモグラの盛り土が見られます。木はサザンカの花が咲き、メタセコイア、ラクウショウの雄花が垂れ下がります。鳥の食物となる木の実は多く見られます。野草はスイバ、ヨモギ等の野草はロゼット状の葉で越冬するのが観察できます。また鳥の餌となる野草の種子も多く観察出来ます。冬の季節感の中で探鳥し、周りの景色を観察してみましよう。

初めて参加希望の方は下記までご連絡の上、当日は五本松公園キャンプ場の駐車場に 9 時までにお越しください。

解 散 午前 11 時 30 分
担 当 鈴木静治
Tel : 080-3121-4757

1 月、2 月手賀沼定点カウント

期 日 1 月 8 日(火) 雨天延期
2 月 5 日(火) 雨天延期
集 合 我孫子市役所 午前 9 時
解 散 正午予定
担 当 金子雅幸、船津登、桑森亮
連絡先 桑森亮
Tel : 04-7182-3149

江戸崎・和田岬・甘田探鳥会

(一部再掲載)

期 日 1月6日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 本年の新春探鳥会は、長年親しんだ小見川・神之池をやめて、江戸崎でオオヒシクイを観察した後は霞ヶ浦南岸を探鳥し、その後一昨年コミミズク、ハイイロチュウヒが復活していた甘田干拓地を訪れます。
交 通 自家用車分乗、便乗者は一人1,500円を運転者にお渡しください。
持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可能)
申 込 松田幸保まで
Tel/Fax : 04-7182-8307
担 当 関口、松田

印旛沼・別所探鳥会

期 日 1月20日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 印旛沼(北部調整池、吉高揚排水機場周辺)で水鳥、田の鳥を探してみましよう。昨年沼ではナポレオン帽のヨシガモ、ヒクイナ、モモイロペリカンのカンタ君、ミサゴ等が、田ではタゲリ等が見られました。別所の調整池では水鳥・林の鳥・鷹を探してみましよう。昨年は池でオシドリ、トモエガモ等が見られ、周辺の谷津田でハイタカ属、ノスリ等が見られました。
交 通 自家用車分乗。同乗者は運転手に一人1,000円をお渡しください。自家用車を提供可能な方は参加申し込み時にお知らせください。
持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可能)
申 込 鈴木静治まで
Tel : 080-3121-4757
担 当 桑森、西城、鈴木(静)

手賀沼船上冬鳥観察会

~旬の手賀沼の野鳥を船上から観察して楽しみませんか~

冬の手賀沼は野鳥観察のベストシーズンです。冬鳥が手賀沼にたくさん集まります。船上からのバードウォッチングは陸からの探鳥と全く違った景色が満喫できます。カムリカイツブリ、オオバン、コガモやマガモなどのカモたち、アオサギ、ダイサギ、コサギのサギたちや猛禽のミサゴなど多くの野鳥に会えるでしょう。運が良ければカワセミの姿も見られます。

身近に冬鳥が観察できる船上観察会への参加をお待ちしています。暖かい身支度でおいで下さい。この冬鳥観察会は我孫子市環境レンジャーとの共催で行います。

日 時 1月27日(日) 午前10時~11時頃
(荒天中止)

場 所 手賀沼(手賀沼公園ボートの小池前)
集 合 : 午前9時45分)

人 員 32名(先着順)

問合せ&申込先 我孫子市手賀沼課
04-7185-1484(直通)

申込みは1月16日午前受付開始、その前の受付はできないのでご注意ください。

第31回野鳥サロン

第31回野鳥サロンを次の通り開催します。

日 時 2月10日(日)13:30~15:00(目安)
2月の定例手賀沼探鳥会の開催日の午後になります。

場 所 水の館3F研修室
テ ー マ 鳥と地域の環境との“結びつき”を探る ~イソヒヨドリの食性分析から~

報告者 岩本二郎さん(当会会員)
内 容 岩本さんはかねてよりイソヒヨドリの内陸化について調査されており、我孫子の市街地で繁殖するイソヒヨドリが雛に与えた餌の2年間の記録と、そこから地域の環境について考えられることを報告されま

す。なお、この話は、日本鳥学会
2018年度大会でポスター発表され
た内容がベースとなっており写真
を多く使いながら噛み砕いて説明
されます。

定員 50名程度（申込不要）
参加費 なし（茶菓等はありません。）

行徳・江戸川探鳥会

期日 2月17日(日) 雨天中止
集合 我孫子駅改札口 午前7時50分
または行徳駅改札口 午前9時

定員 20名

案内 江戸川(放水路)河口、行徳鳥獣保護
区で手賀沼周辺では普段見かけな
い水鳥を観察してみましよう。昨年
は、ホシハジロ、ハジロカイツブリ、
ウミアイサ、ミヤコドリ、ズグロカ
モメなど41種を観ることができま
した。行徳野鳥病院も見学します。
なお、ぬかるみが何カ所かあります
ので長靴がお勧めです。江戸川河口
を探鳥した後、行徳では、行徳野鳥
観察舎スタッフの案内でまとまっ
て行動します。弁当は持参または駅
／バス停前のコンビニ等で予め買
い求め下さい。またトイレが少ない
のでトイレのある場所で早めに済
ますようにお願いします。

持物 観察用具、雨具、長靴、防寒具、昼
食

交通 我孫子 8:02→8:15 新松戸 8:19→
8:34 西船橋 8:42→8:50 行徳
行徳駅---江戸川河口、江戸川河口---
行徳保護区間はバスで移動(バス代
360円)

解散 15:30頃、現地解散
(帰りは行徳保護区近くの行徳高校
前より新浦安駅、市川塩浜駅行きの
バスが便利です)

申込 弘實和昭まで
Tel : 04-7185-2695

担当 相良、弘實(和)

大室公園・嶺公園探鳥会

期日 2月24日(日) 雨天決行
集合 我孫子駅北口 ふれあい広場前
午前7時30分

案内 当会では初めての群馬県前橋市に
ある2つの公園を探鳥します。
大室公園では、ヤドリギに集まるヒ
レンジャクとイカル、シメなどを見
ることが出来そうです。また、公園
内には、古墳時代の二子古墳が見学
出来ます。嶺公園は、赤城山のすそ
野に位置し、市民霊園に隣接する公
園です。公園では、ミヤマホオジ
ロ、アトリ、アカゲラ、アオゲラな
どが期待されます。両公園は、起
伏はそれほどありません。
行程は、片道約200kmあり、バス
乗車時間が長く、また帰着時間が午
後6時頃になる予定です。

持物 観察用具、弁当・飲物、雨具、防寒
具

交通 マイクロバス

定員 21名 先着順

費用 一人4,500円(参加者数により変更
の可能性あります。)

申込 船津登まで

Tel : 090-7267-3728

担当 船津、松本

1月役員会案内

日時 1月13日(日) 13:15~16:00

場所 水の館3F 研修室

議題 ①平成30年度の反省と31年度
に向けて

②会報267号掲載予定記事

③第3四半期会計報告

④報告事項

・芋煮会

・対外対応状況 他

⑤その他(議題のある場合は桑森
までご連絡ください。)

行事報告

10月手賀沼探鳥会

日時 2018.10.14 9:00～12:00

曇り 微風 19℃

明け方の雨は参加者の出足を鈍らせたようだった。第2機場のナガエツルノゲイトウは高さを増している印象で鳥の姿は見えなかったが、チュウサギと思われる集団の上空での移動姿は珍しかった。鉄塔のハヤブサは留守だったが、代わりに雌雄のモズがそれぞれの顔を楽しませてくれた。ヒドリ橋からは、戻って来たミサゴとトビ、チョウゲンボウが見られた。鳥種を増やすべく染井入落到ち寄りつたところ、訪れたばかりのエクリプスのカモ類が居り、上空にも集団が飛来した。最後のお立ち台では、マガモ、ミサゴがより近くで見られ、相当数のクロハラアジサシが飛び交っていた。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、クロハラアジサシ、ミサゴ、トビ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計 36種
番外 カワラバト

<参加者>野口隆也、嶋崎省、村瀬和則、相良直己、船津登、西嶋昭生、間野吉幸、小池忠彦、関口英治、野倉元雄、千葉洋、肥後邦彦、小林博之、小林美智子、野口紀子、石渡成紀、佐藤弘美、坂元貴子、宮本秀樹、相馬唐代子、桑森亮、岩本二郎、西城猛 (担当)
松田幸保 計 24名

10月手賀沼定点カウント

調査日時 2018.10.5 9:00～12:00

小雨 21℃

台風24号による塩害で、手賀沼沿いの樹木は全て南側が枯れ北側にわずかに緑の葉が見えるだけの悲惨な状況に。

カルガモが一気に増え、コガモも100羽ほどカウント出来たが、その他のカモはまだ飛来していないのかカウント出来なかった。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	15	10	25
カルガモ	92	128	220
コガモ	40	61	101
カイツブリ	11	4	15
カワウ	118	59	177
アオサギ	8	5	13
ダイサギ	14	11	25
チュウサギ	1	50	51
コサギ	4	10	14
クイナ	1	0	1
バン	0	1	1
オオバン	0	8	8
ユリカモメ	0	6	6
クロハラアジサシ	0	3	3
合計	304	356	660

<調査者>桑森亮、船津登、金子雅幸 計 3名

10月手賀沼ビオトープ調査

調査日時 2018.10.4 9:30～11:20

曇り時々小雨 無風 23℃

台風24号のため、風当たる側の木の葉は枯れ茶色になる。夏鳥はまだ見られ、モズが鳴き、冬鳥も見られた。水田では刈田の茂みにスズメが群れ、ツバメが飛ぶ。ホオジロが叢で地鳴き、アオサギ、ハシボソガラスが餌探し。ビオトープの池を泳ぐ鳥はいなかった。カルガモの群れ、渡り途中のヒヨドリの群れ

が上空を飛ぶ。キジバト、スズメの群れが飛び、葦原でヒクイナが鳴き、カワセミも鳴く。アオサギ、ダイサギが飛ぶ。林ではハシボソガラスが大木の頂に止まり、メジロ、モズが鳴く。沼では岸近くでカイツブリが鳴き、カワウ、コサギ、コブハクチョウ、ダイサギが飛び、渡り途中のヒヨドリの群れが見られた。観察した野鳥 20 種 267 羽、他に木の花 1 種、実 7 種、野草の花 17 種、花穂 18 種、蝶 7 種、蛾 1 種、トンボ 6 種、バッタ 7 種、甲虫 1 種、蜂 3 種、ハエ 2 種、カメムシ 2 種、蜘蛛 1 種、蛙 2 種を観察しました。

<認めた鳥>コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ヒクイナ、ユリカモメ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、セッカ、スズメ、ホオジロ 計 20 種。

<調査者>鈴木静治、池田日出男、間野吉幸、船津登、古出洋子、嶋崎省 計 6 名

11月手賀沼探鳥会

日時 2018.11.11 9:00~12:00
 晴れ 微風 23℃

平年気温を大きく上まわる 23℃の晴天で探鳥日和、参加者も 39 名となりました。

通常のルートの北千葉導水第 2 機場から始まり、ミサゴの飛翔、オカヨシガモ、カンムリカイツブリの常連さんには会えたが、ハヤブサは留守の様子。湖面をユリカモメ、セグロカモメが舞ってくれた。バン若鳥が目の水面を横切る。ヒドリ橋では、ナガエツルノゲイトウが繁茂しており、ワンドは塞がってしまっていた。中州付近の“ナガエ浮島”にカルガモとアオサギが目につく。耳にはモズの高鳴きで勇気付く。道の駅でのトイレ休憩後、ハス田の木道が補修工事のため、マガモを断念し、お立ち台へ直行。染井入落方向に少し歩くと湖面は思いの外賑やかで、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモの群れ、スズガモも見える。下沼のミサゴも遠くの杭に止まっていた。湖畔では意外にもアリスイが姿を現してくれた。対岸のコサギを覗いたら、おまけに真近にいたカワセミを見つけた。

参加者数を超えるか不安でしたが、ベニマシコ、アオジの声もあり、結果的に 44 種に至り担当冥利の探鳥会になりました。

<認めた鳥>コブハクチョウ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、スズガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クイナ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、アリスイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カラヒワ、ベニマシコ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計 44 種 番外 カワラバト

<参加者>肥後邦彦、村松寿夫、関口英治、野口隆也、西城猛、村瀬和則、坂元貴子、坂元孝行、相馬唐代子、金子幸子、嶋崎省、森本宜久、北崎正則、弘實和昭、菊池幸雄、菊池昌江、渡辺政一、西嶋昭生、落合聡、常盤孝義、古出洋子、松田幸保、間野吉幸、類地佑子、石井俊子、佐藤弘美、宮本秀樹、中田みどり、志村弘美、相良直己、高波宜子、千葉洋、野倉元雄、岩本二郎、久松典子、桑森亮、鍋倉妙子、野口紀子 (担当) 松本勝英 計 39 名

11月手賀沼定点カウント

調査日時 2018.11.2 9:00~12:30
 快晴 13℃~18℃

快晴、無風と条件も良く期待は大きかったが、上沼では定位置をカワウに占拠されたコガモは前年の 1/3 の数字。久しぶりのハヤブサ、チョウゲンボウ、ヒクイナに慰められた。下沼ではカモ類が 8 種認められた他、ハジロカイツブリの小群やミサゴのハンティングが見られるなど盛り返し、トータルは前年を少し上回るカウントが出来た。

1 月からの累計でも 9000 羽の大台に乗り、年間 1 万羽越が現実味を帯びて来た。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	13	25	38
ヒドリガモ	0	71	71

マガモ	0	40	40
カルガモ	22	7	29
ハシロガモ	0	1	1
オナガモ	0	8	8
コガモ	113	7	120
ホシヅロ	0	40	40
スズガモ	0	57	57
カイツブリ	21	21	42
カンムリカイツブリ	14	37	51
ミミカイツブリ	0	1	1
ハシロカイツブリ	0	20	20
カワウ	207	30	237
ゴイサギ	0	1	1
アオサギ	18	3	21
ダイサギ	7	9	16
コサギ	7	8	15
ヒクイ	2	0	2
バン	1	0	1
オオバン	27	56	83
ユリカモメ	23	0	23
セグロカモメ	1	2	3
クロハアジサシ	2	0	2
合計	478	444	922

<調査者> 桑森亮、船津登、金子雅幸、嶋崎省 計4名

11月手賀沼ビオトープ調査

調査日時 2018.11.1 9:30~11:05
 晴れ 弱風 20℃

朝は寒かったが、日が昇ると暖くなる。ビオトープへ来る途中、遠く白き帽子をかぶる富士山が見られた。秋から冬への季節の変わり目で冬鳥のコガモ、ユリカモメ、アオジが見られた。水田では稲のひこばえで青々した田に鳥は殆ど見られず、道近くの草の茂みで、ホオジロ、スズメの飛ぶのが見られる程度。ビオトープの池ではカルガモの群れ、カイツブリが泳ぎ、ダイサギが池中で餌探し。カワセミ 2羽が水面上を飛び葦原に入る。コサギ、換羽を終えたカワラヒワが木の頂に止まり、モズが木の上で高鳴く、時々他の鳥の真似して優しい声で鳴く。沼では岸近くを

コブハクチョウ、オオバンが泳ぎ、上空をカルガモ、カワウの群れ、コガモ、ユリカモメが飛ぶ。観察した野鳥は17種117羽。他に木の花2種、実8種、草の花5種、花穂・種子11種、蝶5種、トンボ1種、蜘蛛1種、蛙1種を観察しました。

<認めた鳥>コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ユリカモメ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 計17種

<調査者> 鈴木静治、間野吉幸、船津登、蒲田知子 計4名

稲敷探鳥会

10月7日

～ハス田で観察～

嶋崎省

北上した台風25号の影響で強い風が残る中、我孫子駅北口に集合。9時に出発し、稲敷市の観察場所に向け、一路、利根水郷ラインを進みます。途中で農産物の直売所「しもふさ」に立ち寄り、休憩。

10時半頃に、最初の観察ポイントである稲敷市浮島地区にある鉄塔周辺のハス田に到着。既に他のグループの観察者や撮影者が集まっていました。このポイントは、既にレンコンの収穫を終えたハス田で、水面が露出し、水面に浮いたハスの葉の残りや浮草を目標に、何種類かのシギが集まっていました。農道からわずかの距離で鳥たちを観察できるので絶好の撮影ポイントです。なかなか種類の判別は難しい中で、セイタカシギは、その名の通り足が長くてスマートなシギで、体全体の黒白のコントラストと赤い脚が目立ち、名前をすぐに覚えることができました。

別のハス田では、農家の人が胸まで浸かってレンコンの収穫を行っていました。当然、水は濁っていますので手探り、足探りの収穫作業です。レンコンはおせち料理でよく消費されますが、これから水は冷たくなるし、大変な作業だなと感じながら見ていました。

一方で防鳥ネットも目につきました。車で移動する中で、シギの仲間と思われそうですが、ネットに引っ掛かった異様な姿が見られま

した。シギやチドリの仲間が移動するこの時期、ましてや冬鳥のカモ類が大挙して来る時期は、既にハスの地上部も枯れています。鳥による食害とは何だろう、まさかハス田に潜ってレンコンを食べているわけではないしと思ひながら眺めていました。

ハス田の間を走る農道で鳥たちを観察・撮影する人たちが行き来する中で、農家の人たちも農作業に追われています。レンコン栽培と野鳥が共存できるような環境となり、この貴重な観察ポイントがいつまでも利用できるようになればと思います。

昼食は、稲敷大橋のそばにある妙岐の鼻野鳥観察場の駐車場においてです。ここでは、チュウヒ、ミサゴ、ノスリなどの猛禽類が見られました。チュウヒは、妙岐の鼻のヨシ原の上をすれすれに低空で飛翔し獲物を探していました。

午後からは、ヨシ原や水田が広がる干拓地を車で移動しながらの観察です。お目当ては、図鑑によれば、八重山諸島に留鳥として分布する大型のサギ類である「ムラサキサギ」。アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギが多く見られる中で、メンバー全員で探しましたが、残念ながら見出すことができませんでした。またの機会に期待したいと思います。

今日は、快晴の天気でしたが、30度を超える真夏日となり、季節外れの暑さの中での探鳥会でした。それでも、シギ、チドリの仲間を比較的近距离でじっくりと観察でき、有意義な一日でした。

【幹事報告】

3年振りの稲敷探鳥会、台風の影響でハス田の水量が多かった事もあり、見られたシギチは、オグロシギ、オオハシシギ、ツルシギなどなど大型種が中心。

下見時に発見したムラサキサギを全員で見たいと、48個の目で懸命に探すも残念ながら見つける事は叶わなかった。その代わりに、昼食時にかなりの方が認めたチュウヒがその後大陸型である事が判明。

全体ではカモ類、サギ類、シギチ、猛禽類など認めた鳥は合計39種。我孫子から1時間強の探鳥地、稲敷の面白さが改めて再認識出来た探鳥会でした。

<認めた鳥>ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、キンク

ロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、バン、オオバン、コチドリ、セイタカシギ、オオハシシギ、オグロシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、トウネン、ミサゴ、トビ、チュウヒ（大陸型）、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ 計39種

<参加者>池田日出男、井上正、上杉宣一、桑森亮、小林美智子、坂元孝行、坂元貴子、相良直己、嶋崎省、関口英治、相馬唐代子、津村勝吉、鍋倉妙子、新堀正則、野尻清敬、野尻恭子、船津登、間野吉幸、百瀬喬、森本宜久、吉田隆行、渡邊俊文、(幹事)松田幸保、金子雅幸 計24名

伊豆沼・蕪栗沼探鳥会

11月25日、26日

～マガンの群れを楽しんで～

高波宜子

くりこま高原駅からレンタカーに乗り込んで探鳥会の始まりです。稲刈りの終わった田で早速、カリガネとマガンの群れに出会いました。その後、ハクガン、シジュウカラガンを群れの中に見つけ、ヒシクイの群れの中のヘラサギを楽しみながら、マガンの罫入りを待ちました。夕陽が沈み暗くなりかかっからの1時間は感動でした。どこからともなくやって来るガンの群れが、そのうち四方八方から湧き出るように、飛んで来て、次々と罫入りするのです。その時の鳴き声や落雁の様子は今思い出しても興奮します。翌日の早朝の飛び立ちも同様です。バサッ、バサッという羽音と共に次々とV字編隊をしながら飛んで行きます。ガンを見るのは初めてでしたが、この二日間で十分に観察出来ました。充実した楽しい探鳥会でした。幹事の方、ご一緒して頂いた方々、ありがとうございました。

～マガンの群れを体感して～

野尻恭子

探鳥会ではいつも鳥の種類を特定して楽

しみますが、今回の数万羽のマガンの埒入り、早朝の飛び立ちは、周りの山々の風景や鳴き声、羽音など全て含めた映像に圧倒されました。数万羽という数の威力にただただ感動です。またガン自体は今回初見でしたが、夕暮れに編隊を組んで飛ぶ姿はととても懐かしい気がして不思議でした。日本の原風景の1つだからでしょうか。また何年かしたらあのマガンの群れを体感したくなりそうです。

～マガンの羽音と鳴き声～

弘實さと子

蕪栗沼で夕日が沈む頃のガンの埒入りを、翌朝の伊豆沼で朝の飛び立ちを観察しました。各沼で6万羽以上のガン類(主にマガン)の埒入りと飛び立ちです。夕方は4時から5時。朝は6時から7時まで観察しました。ピーク時は、空がマガンに覆われて、羽音や鳴き声が周辺に響き渡ってわくわくする時間を過ごしました。「日本の音風景100選」に選ばれただけの事があります。素晴らしいショーを見学でき担当者に感謝したいです。少し気になったことですが、地元の人達はこの声をどう思っているのだろうか。もし手賀沼に数万羽の鳥が現れたら・・・数千羽のムクドリにも苦情が殺到しているのにと余計なことを考えてしまいました。最後に、駅で伊豆沼周辺の地図を見て驚いた事。伊豆沼の標高は1.8mで手賀沼より低いのですね。

【幹事報告】

11/25(日)8:30am 上野駅に集合し、8:54の新幹線に出発。11:13 くりこま高原駅に到着。レンタカー3台で本日の最大のイベントである雁の大群の埒入り・落雁の観察場所：蕪栗沼に向け出発。途中の田で休むマガン(天然記念物、準絶滅危惧種)の群れに混じる黄金色のアイリングのカリガネ(絶滅危惧種)を観察、他の場所でマガンの群れの中に入っているハクガン(レッドデータブック情報不足種)、シジュウカラガン(絶滅危惧種)を観察することが出来ました。ハクガンは日米露で繁殖計画が実施され、シジュウカラガンは日露で繁殖・放鳥されているため日本でも見られることが出来るようになってきました。蕪栗沼に15:30頃着き、雁の埒入りを待つ間、ヒシクイ(天然記念物、亜種オオヒシクイは準絶滅危惧種、亜種ヒシクイは絶滅

危惧種)、オオハクチョウ、トモエガモ、ミコアイサ、ヘラサギ等を観察できました。16:30頃、日没前後、刻々と色が変わる夕焼け空にウンカのように多くの雁の群れが埒入りをし始め、キリモミをして沼の水面に降りる雁(落雁)に見入ります。16:30~17:00が最盛期で、その後も続いていましたが、暗くなり足元も見えなくなり、例年より寒くないのですが、少し冷えてきましたので、途中コンビニでトイレ休憩をし、17:30頃、本日の宿ウエットランド交流館に着きました。翌日11/26(月)4:30頃起床、5:00暗くやや小雨模様の中、出発。伊豆沼東側で待ちましたが、暗い沼に浮かぶ雁の群れがわからない。5:30頃、伊豆沼西側に移動し、日の出を待つ。6:30頃の日の出までは水面からパラパラ飛び立つ程度であったが、6:30~7:00には雁の群れが飛び立ち、上空でV状、L状、I状等20~50羽の群れが幾重にも重なり合う。朝日をバックに壮大な雁の飛び立ちです。数回この飛び立ちを繰り返し、7:00過ぎには沼に浮かぶ雁は少なくなりました。西の空の月をバックに飛ぶマガンも風流でした。明るくなり空腹になりましたので宿に帰り7:30から朝食。8:30記念写真を撮り、出発。伊豆沼北岸の農耕地で探鳥。マガンの群れ、オオハクチョウの群れが見える。10:30頃になると田で休んでいるマガンの群れに飛んできたマガンの群れが加わる。この繰り返しでどんどん群れが大きくなってゆく。朝飛び立ち食事を終え、中間のいる安全と思われる場所に帰って休憩しているようだ。この中でハヤブサも飛び、畦に止まる。よく見るとオオハクチョウと並んでいる。さすがオオハクチョウ(10kg)に比べるとハヤブサ(1kg)は幼児のように小さく見える。11:00~12:00野鳥観察舎より水鳥を見る。ここではマガンの大群が、雪をかぶった栗駒山をバックに、沼岸近くを泳ぐ。この中にシジュウカラガンも泳ぐ。カワアイサ、ミコアイサも見られた。レストランで昼食後、内沼を通りくりこま高原駅に到着。14:59発の新幹線に乗り、17:18上野着、解散。マガンの埒入り(落雁)、早朝の飛び立ち、昼に田で休む群れ等、さらに希少なカリガネ、ハクガン、シジュウカラガン、ヒシクイ等の探鳥と雁三昧の2日間でした。<認めた鳥>ヒシクイ、マガン、カリガネ、

ハクガン、シジュウカラガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ヘラサギ、クイナ、オオバン、タシギ、トビ、オオタカ、ノスリ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ 計 54 種

<参加者> 神部充、嶋崎省、渡辺政一、渡邊俊文、野尻清敬、野尻恭子、弘實和昭、弘實さと子、高波宣子、石塚喜久夫 (幹事) 鈴木静治、桑森亮 計 12 名

第 18 回 ジャパンバードフェスティバル (JBF 2018)

<総括報告>

JBF2018 が 11 月 3 日(土)、4 日(日)の両日にわたり、水の館、親水広場、オオバン広場 (鳥博駐車場)、アビスタを中心に開催されました。当会の出展は、昨年引き続き①オオバン広場ブース I ~ III、②湖畔 BW (噴水前デッキ)、③船上 BW の船内ガイドで活動を展開しました。

ブース I では「我孫子野鳥を守る会の活動と手賀沼の水鳥の現状」をテーマに、当会の活動全般、手賀沼の水鳥個体数の変遷、手賀沼探鳥の魅力 (探鳥ポイントと野鳥写真) のパネル 7 枚、2018 年遠出探鳥会での野鳥写真を展示し、ブース II では恒例の「塗り絵とパタパタ工作」では親子による体験、ブース III でも恒例の「庭に鳥を呼ぶ」で鳥の好む餌や植物標本等の展示を行いました。

JBF 全体として、今年は新たにアスファルト舗装され広がった鳥博駐車場がオオバン広場となり、好天にも恵まれ、2 日間とも多くの人出で賑わいました。その結果、各ブースで昨年を超える来場者を記録し、全体としては成功裏に終了したと思います。

JBF 全体での来場者は公式発表では 40,000 人と昨年並みでしたが、当会のブースについては、何れも昨年以上の来場者で、船上 BW は全 7 便とも早々と満席になりました。多くの方々に当会の活動やバードウォッチングの楽しさを知ってもらい、人と野鳥の共存について関心を深めて貰いました。

2 日間の活動を通して、新たに 3 名の方が入会し、当会の活動に関心を持たれた方々も多く、特に我孫子や柏に居住の方々には定例探鳥会への参加をお誘いしました。

また、今回も昨年に引き続き台湾とモンゴルをサポートするとともに交流を深め、何れのブースも盛況でした。

2 日間を通して、当会への来場者総数は 4,338 名 (昨年は 3,161 名) で大幅に増加、会員参加者は前日準備を含めて延べ 104 名の皆さんにご協力を頂きました。担当幹事、支援スタッフの皆さんの総力を結集して大きな成果が得られました。多くの皆さまのご協力に感謝申し上げます。

各ブースの詳細については、各グループリーダーから報告されます。

(事務局 桑森)

<メインブース パネル展示>

「我孫子野鳥を守る会の活動と手賀沼の水鳥の現状」をテーマにパネル展示しました。

1. 当会の活動の紹介

- (1) 当会活動の概要 (パネル 2 枚)
- (2) 手賀沼の探鳥の魅力を紹介する観点から、①手賀沼の探鳥スポット図 (パネル 1 枚)、②観察された鳥の写真 16 枚をパネル化 (パネル 2 枚)
- (3) 遠出探鳥会 (台湾、行徳、伊香保、井頭、佐原、涸沼) での写真 12 枚を A3 ラミネートシート化

2. 手賀沼の水鳥の状況を紹介

当会の手賀沼水鳥カウント調査データをベースに、「手賀沼の水鳥の科別総個体数の推移」「カモ科の年総個体数の動向」をパネル 2 枚にまとめ掲示しました。また、各パネルの解説を A3 ラミネートシートで掲示しました。

この展示に先立ち、10 月 14 日に野鳥サロンを開催し、展示に関する詳細説明を間野会長からして頂き、データの評価・分析につい

て議論することにより、展示内容の理解を深め、来場したお客様に対応しました。熱心に説明に耳を傾ける方々が多数おられました。

3. 総括

オオバン広場テントでは、ブースⅡ、Ⅲのパタパタ工作&ぬり絵コーナーには親子連れが訪れ、庭に鳥を呼ぶコーナーには鳥好きや植物好きの方々が訪れます。その方々をパネル展示に誘導し、説明することが多かったと思います。

水鳥パネルに関心を寄せた方は、水鳥や手賀沼の環境に関心を持った人、地元で手賀沼を歩いている方々が多かったと思います。こうした人たちには、当会の活動もアピールできました。

一方、通路側に展示した遠出探鳥会の写真は目立ったようで、写真に足を止める人が多く、特に台湾の写真が目を引きました。人を呼ぶには、前面のディスプレイを工夫することが大事な要素のようで、この点を今後に活かしたいと思います。

(担当 桑森)

<パタパタ工作&野鳥塗り絵>

例年通り「パタパタ工作」6種、「野鳥塗り絵」14種を実施しました。

晴天の故か、開始直後から来場者が引きも切らず、しばしば順番待ちが出るほどの盛況となりました。

2日間の来場者は359名で前年より2割アップ。「去年も作った」というリピーターが増えているのもうれしい限りです。

予想を上回る来場者増で椅子が足りなくなり、お手伝い下さった方は立ち通しでした。皆様、お疲れさまでした。

(担当 野口(紀))

<庭に鳥を呼ぶ>

秋、冬の野鳥の食べ物が少ない時期に、庭に鳥を呼ぶにはどのようにすれば良いのか？餌台(牛乳パックに蜜柑、針金に殻付き落花生)、草木の実(特に一両から万両5種)を実物展示し来客に紹介しました。庭、ベランダで木の実を実らせ鳥と共に楽しみたい方には千両、万両の苗をプレゼントしました。ペーパークラフトのメジロを付けた牛乳パックの餌台は可愛く安く出

来ることから女性に人気あり、ペーパークラフトのヤマガラとシジュウカラを付け針金を通した殻付き落花生は簡単に出来るため男性に人気がありました。鉢植え、生花の一両~万両(縁起物の実)のうち一両(アリドオシ)、十両(ヤブコウジ)、百両(カタチバナ)は知らない人もあり、説明しました。また財布に入れると金運の良くなるカラスウリの種、アンモナイトにそっくりのアオツツラフジの種も実物紹介しました。

(担当 鈴木)

<船上バードウォッチング>

今年は、昨年の反省を踏まえ、初日第4便の出船時間を30分早めました。これは、夕刻の探鳥への“暗さ対策”ですが、第3便と4便との連携上、別船を用意する必要があることになりました。結果的には、第4便で、チュウヒの罫入りを眼前で見られるという幸運に恵まれました。

「鳥果」は、全7便の順で、22、20、20、23、21、23、22種で、延べでは30種となり、前年比微増の結果でした。全便でミサゴが見られ、大人気でした。

乗船者の居住別内訳では、地元我孫子市32名、柏市13名に対し、県内他市62名、東京都61名に続いて静岡、神奈川、茨城、宮城、埼玉、山梨、愛知、三重、岐阜、福島各県合計で71名となり約80%が地元外でした。北海道(網走)、インド、モンゴルからの乗船もあり最終的な乗客合計は、243名で“全便満席”でした。

当会の体制は、両日延べ13名をもって、ガイド担当、テント詰めを割り振りました。

(担当 松本)

<湖畔バードウォッチング>

11月3日(土)の天気は、晴で気持ち良い日でした。来場者は、祝日で、天気が良かったこともあり、1,461人で昨年より多くなりました。認められた鳥は、上空を飛ぶトビ、杭に止るミサゴ、葦原の上を飛ぶチュウヒ、遠くの鉄塔に止るハヤブサと猛禽類4種を含め28種でした。皆さんが期待しているカワセミは、時々湖面上を飛びますが止ってくれませんでした。チュウヒは、3回葦原の上

を飛び、最後に飛んだチュウヒは、腰が白く見え、ハイイロチュウヒではと盛り上がりました。

11月4日(日)の天気は、曇りで、午後雨がパラパラしました。来場者は、1,105人と昨年より増えました。午前10時頃、対岸の杭にオオタカが止っており、その後すぐ横の杭にカワセミが止り、しばらく2ショットが見られ、スコープにスマートフォンを付けて写真を撮っている人もいました。上空を群で飛ぶタゲリ、湖面上を群で飛ぶカンムリカイツブリが見られました。ハス田の上をチュウヒが飛ぶと、カモ類、サギ類が、飛び上がりました。認められた鳥は、猛禽類4種を含め28種でした。両日を通してカモ類の姿が少ないことが目立ちました。来場者には、ズーム付きデジカメを持った小学生が多かったです。

2日間合計で、来場者は2,566人、認められた鳥は33種+番外1種でした。会員の案内者は、延べで24名でした。

(担当 船津)

第30回「野鳥サロン」の実施報告

野鳥サロンは今年度から随時開催としていましたが、第30回野鳥サロンを10月14日(日)午後1時30分から3時20分、水の館3F研修室において開催しました。

当会は1977年から約40年にわたり、手賀沼の水鳥のカウント調査を行い、そのデータを蓄積しています。JBF2018では、このカウントデータに基づき、1977年～2017年の手賀沼の水鳥の科別総個体数の推移、カモ科種別総個体数の推移をグラフに纏め、当会ブースでパネル展示します。これを機に、手賀沼の水鳥に関する現状の理解を深め、パネルの内容に関する知識の共有化を図るため、データをどう評価・分析するのか、増減の理由は、更には科・属・種まで踏み込んだ個体数の推移と評価等について間野会長から解説していただき、幅広い議論と意見交換を行いました。

JBFでは全国各地から多くの方々が当会ブースを訪れ、パネルをご覧になったことと思います。会員の総力をあげて手賀沼の水鳥

の現状を紹介・説明し、多くの方々にご理解いただけたことと思います。

<参加者>間野吉幸、相馬唐代子、嶋崎省、大久保陸夫、多葉田五男、坂元貴子、関口英治、野口隆也、橋本了次、渡邊俊文、宮本秀樹、野口紀子、吉田隆行、池田日出男、田中功、石渡成紀、野尻清敬、千葉洋、小林美智子、相良直己、古出洋子、岩本二郎、船津登、野倉元雄、弘實和昭、松田幸保、石井俊子、桑森亮(報告) 計28名

手賀沼親子ふれあい探鳥会実施報告

日時 12月1日(土) 9:30～12:30 晴
行程 手賀の丘公園～手賀沼(下沼)～手賀の丘公園

内容 手賀沼流域フォーラム地域企画の一環として、一般市民を対象にして当会会員が野山と水辺の鳥を案内し、家族に探鳥の楽しさを伝える親子ふれあい探鳥会を実施しました。当日は風もなく好天に恵まれた絶好の探鳥日和で、野鳥も47種+番外2種が観察されました。

今回も昨年と同コースを選択、桜の森付近ではコゲラに続いて、きれいなノスリが上空を飛び回り、一時歓声に包まれました。

手賀沼に向かう途中の田圃ではタヒバリが頻繁に観察されました。手賀沼ではミサゴに加え、ヒドリガモ、ヨシガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ等の水鳥が多数観察でき、参加者の皆さんが大変感動していました。

鳥合わせの後、野鳥ビンゴの結果に応じた当会特製の「野鳥カード」や「塗り絵セット」のプレゼントがあり、子供たちは大喜びでした。

<認めた鳥>コブハクチョウ、オシドリ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ユリカ

モメ、セグロカモメ、ミサゴ、チュウヒ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、オオジュリン、計47種 番外 コジュケイ、カワラバト

<参加者>一般市民 16名。会員 19名：北崎正則、坂穂実、坂聡子、相良直己、小林博之、西嶋みどり、百瀬喬、船津登、間野吉幸、徳重玲子、坂元孝行、肥後邦彦、相馬唐代子、関口英治、桑森亮、古出洋子、千葉洋、渡邊俊文、野口隆也 計 35名

統一クリーンデイ・ふれあい清掃

「一人ひとりの力でもっときれいな手賀沼に」をスローガンにした第28回手賀沼統一クリーンデイ・ふれあい清掃が12月2日(日)に実施され、我孫子市会場では当会から12名の方が参加されました。

前日まで暖かい日が続いたのですが、一転して寒い曇り空の下、星野市長の挨拶の後、清掃にかかりました。当会は根戸新田方面の道路下の手賀沼岸の清掃と手賀沼公園の湖上園ボート店前のナガエツルノゲイトウ等の駆除作業の2か所を分担しました。

長い期間に亘って清掃を続けた成果でしょうか、道路下のゴミは心做しか少し減少しているようです。他方ナガエツルノゲイトウ等の繁茂は著しく、手賀沼一面に拡大する懸念があります。水鳥の棲息環境への影響を避けるための活動が必要でしょう。この日は想定面積を少し上回る駆除をしたところで終了しましたが、大汗が出るほどの活躍をして頂きました。

終了後は参加記念品の配布や市職員組合提供のトン汁で体を暖め散会しました。

<参加者>間野吉幸、船津登、野尻清敬、桑森亮、野口隆也、関口英治、松田幸保、森本宜久、金子雅幸、鈴木裕爾(担当)野倉元雄、千葉洋 計 12名

11月役員会報告

日 時 平成30年11月11日(日) 13:15~17:00

場 所 水の館3F 研修室

出席者数 22名

議 事

1. 2019年度上期行事計画

2019年度上期行事について検討し、次の通り決定しました。

月	実施日(曜日)	行事内容	担当
4	02(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	04(木)	ビオトープ調査	鈴木他
	14(日)	手賀沼探鳥会 定期総会、事務局会議	松本 事務局
	20(土)	葛西臨海公園探鳥会	相良、千葉
	30(火・祝)	筑波山探鳥会	関口、松本
5	02(木)	ビオトープ調査	鈴木他
	07(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	12(日)	Enjoy 手賀沼バードウィーク 探鳥会 (定例手賀沼探鳥会兼) 役員会	事務局 事務局
	12(日)	柏市民活動フェスタ 2019	千葉、渡辺
	26(日)~27(月)	松之山探鳥会	金子、松田

6	04(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	06(木)	ビオトープ調査	鈴木他
	09(日)	手賀沼探鳥会 事務局会議	坂元、佐和橋 事務局
	22(土)	新入会員オリエンテーション	相良、船津、野口(紀)
	16(日)	印旛沼・笹川探鳥会	桑森、鈴木
7	02(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	04(木)	ビオトープ調査	鈴木他
	14(日)	手賀沼探鳥会 役員会	船津 事務局
	21(日)	Am 映写会 Pm 懇親会(昼食)	相良、石渡 野口(紀)、石井、小林(美)、坂元
8	01(木)	ビオトープ調査	鈴木他
	04(日)	ホテルの夕べ	桑森、木村
	06(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	011(日)	手賀沼探鳥会 事務局会議	桑森 事務局
9	01(日)	三番瀬探鳥会	野口(隆)、相良
	03(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	05(木)	ビオトープ調査	鈴木他
	08(日)	手賀沼探鳥会 役員会	松田 事務局
	14(土)～15(日)	市民のチカラまつり 2019	間野他
	29(日)	我孫子・柏探鳥会	千葉、船津

2. ほーほーどり 266 号掲載予定記事

会報 266 号の掲載記事について検討し、執筆担当等を決定しました。

3. 第 2 四半期会計報告

会計担当が資料に基づき報告し、了承されました。

4. 芋煮会

12/16(日)に実施する芋煮会の予算、運営、役割分担、準備等について検討し、決定しました。

5. 報告事項

次の事項が報告されました。

- ①市民のチカラまつり 2018 出展結果
- ②第 30 回野鳥サロン実施結果
- ③JBF2018 出展結果
- ④対外活動報告（美手連関係、JBF2018 関係等）
- ⑤事務局報告事項

6. その他

第 31 回野鳥サロンの開催についての事務局提案が了承されました。
詳細は行事案内をご覧ください。

以上

鳥 だ よ り

カモやカイツブリなどの水鳥が飛来し、ミヤマガラスの群れも到来しています。モズが枝先に止まり高鳴きを披露して、ホオジロが賑やかに囀っています。クロハラアジサシがずいぶん遅くまで観察されていました。キビタキ、アカハラ、アオジ、アリスイ、キクイタダキと次々と冬の野鳥が報告されています。

カモや小鳥が多くなると、ワシタカも増えてきます。チュウヒやハイタカにハイイロチュウヒまで現れて、猛禽類が9種も報告されていました。

一方で、いつもは10月には現れるカシラダカが今年はまだ報告がありません。カシラダカが絶滅するのではというショッキングな話もあり、心配になるところです。カシラダカだけでなくアオジなどホオジロ科の鳥たちが少なくなったのでは、という声も聞かれました。

今回報告のないアトリなど、毎年来てくれる鳥がいないのはさみしいものです。

手賀沼の周辺の賑わいは続いていきます。寒さに負けず、探鳥を楽しみましょう。

- | | |
|---|---|
| <p>9.23【光ヶ丘廣池学園】コトビ[♂]♀(3)
楷の木と金木犀の木を歩き来 飯泉仁</p> <p>9.23【泉】エゾビ[♂]♀(1)
木のとっぺんに止まり周囲を警戒
飯泉仁・飯泉久美子</p> <p>9.24【手賀の丘公園】ツツドリ(1)
桜の木に止る 船津登</p> <p>9.24【手賀の丘公園】ヤマガラ (約 15)
船津登</p> <p>9.27【発作】モズ(1)
川原の樹で高鳴き 鈴木静治</p> <p>9.27【布佐】フカウ(1)
森の木に止まり鳴く 鈴木静治</p> <p>9.29【泉村新田】ヒ[♂]♀(1)
蛙の草に止る 船津登</p> <p>9.29【染井入新田(手賀沼)】バン(3)
水辺で動く 船津登</p> <p>9.29【手賀の丘公園】センダムシクイ(1)
混群の中で動く 船津登</p> <p>9.29【手賀の丘公園】ヒ[♂]♀(1)
小枝に止る 船津登</p> <p>9.29【光ヶ丘廣池学園】アカゲラ(1)
鳴きながら移動 飯泉仁</p> <p>9.30【発作】イシキ(1)
岸より対岸に飛ぶ 鈴木静治</p> <p>9.30【発作】チュウキキ (約 200)
埵近くの田、川上空を群れ飛ぶ
鈴木静治</p> <p>9.30【布瀬】チョウゲンボウ(1)
電線で掴まえた虫を食べる 鈴木静治</p> <p>9.30【布瀬】カモ(1) 初認</p> | <p>川の中を群れ泳ぐ 鈴木静治</p> <p>9.30【下沼田】ノリ(1)
刈田の杭に止まる 鈴木静治</p> <p>10.01【布佐平和台】フカウ(1)
ギヤーとおおの音が聞こえる 鈴木静治</p> <p>10.01【手賀の丘公園】コトビ[♂]♀(1)
桜の木に止る 船津登</p> <p>10.02【染井入新田】ヨシコイ(1)
沼岸より飛び葦の茂みに隠れる
鈴木静治</p> <p>10.04【岡発戸新田】ヒクイ(1)
葦原より鳴き声 鈴木静治・船津登・
間野吉幸・池田日出男・古出洋子・嶋
崎省</p> <p>10.04【岡発戸新田】クロハラアジサシ(2)
沼上空を飛翔、時々急降下し魚を狙う
鈴木静治・船津登・池田日出男・古出洋
子・嶋崎省</p> <p>10.05【手賀沼】バン(1)
下沼 1 金子雅幸</p> <p>10.05【手賀沼】ミサゴ(1)
上沼 1 金子雅幸</p> <p>10.06【光ヶ丘廣池学園】エゾビ[♂]♀(2)
楷の実を食べに飛来 飯泉仁</p> <p>10.07【染井入新田】ヒ[♂]♀(3)
草地で採餌 飯泉仁・飯泉久美子</p> <p>10.07【片山】ハイイロチュウビ(1)
葦原の上を飛翔 飯泉仁・飯泉久美子</p> <p>10.09【手賀の丘公園】ウグイス(1)
地鳴き 船津登</p> <p>10.10【発作】バン(2)</p> |
|---|---|

- 岸より川中へ泳ぐ 鈴木静治
- 10.12【江蔵地】ツツリ(1)
葦原のワグルミの枝に止まり、モズを追い
回す 鈴木静治
- 10.12【江蔵地】マカモ(8) 初認
川の中で群れ泳ぐ 鈴木静治
- 10.14【光ヶ丘廣池学園】モズ(1)
鳴きながら移動 飯泉仁
- 10.14【光ヶ丘廣池学園】キバ(3)
楷の木に飛来 飯泉仁
- 10.15【北新田】キキレイ(1)
越流堤傍で採餌、初めて出会った。
佐藤さなえ・畠中暁美ほか 10名
- 10.15【北新田】クシギ(1)
水路から飛び立った
佐藤さなえ・畠中暁美ほか 10名
- 10.15【手賀の丘公園】ヤマガラ(6) 船津登
- 10.15【鷲野谷新田】ノリ(1)
電柱に止る 船津登
- 10.19【曙橋】ヒキ(1) 初認
葦原でキョッキョと鳴く 鈴木静治
- 10.19【新木】イツギ(1)
小川を飛び、石に止まる 鈴木静治
- 10.19【水道橋】ク(1)
葦原でヒューヒューと鳴く 鈴木静治
- 10.19【千間橋】タシギ(1)
刈田でコォコォと鳴く 鈴木静治
- 10.20【光ヶ丘廣池学園】エゾビ(1)
ソメイヨシノの木に飛来 飯泉仁
- 10.20【染井入新田】セグロカモメ(1) 初認
湖面をただよう。 船津登
- 10.21【光ヶ丘廣池学園】ヤマガラ(2)
鳴き声 飯泉仁
- 10.21【布瀬】カムリカツブリ(1) 初認
川の中州近くを泳ぐ 鈴木静治
- 10.21【千間橋】チョウゲンボウ(1)
田の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 10.24【正蓮寺】バン(1)
水面を移動 飯泉仁
- 10.25【手賀新田】トビ(1)
田の電柱に止まる 鈴木静治
- 10.25【大森】ジョウビ(1) 初認
パタパタと音がしました 古出洋子
- 10.26【手賀の丘公園】アリスイ(1) 初認
柳の木に止る 船津登
- 10.28【弁天下(辺り)】ミヤカラス(300) 初認
農免の柏寄り上空を通過 村井みとい
- 10.29【岡発戸峠下】ノリ(2)
上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 10.29【岡発戸峠下】オジユリ(1)
葦原で鳴いていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 10.29【岡発戸峠下】クロハラシバ(3)
飛翔し移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 10.30【大井新田地先上沼】ミコ(1)
水面に飛び込み魚を捕まえ、低空で飛翔
吉田隆行
- 10.31【下沼田】チョウゲンボウ(1)
鉄塔上部近くでホバリング 鈴木静治
- 11.02【手賀沼辺】オカ(1) 下沼 1
金子雅幸・船津登・桑森亮・嶋崎省
- 11.02【手賀沼辺】ハブサ(1) 上沼 1
金子雅幸・船津登・桑森亮・嶋崎省
- 11.03【柏】ジョウビ(1)
テレビアンテナに止まり鳴く
吉田隆行
- 11.05【手賀の丘公園】シメ(1)
木に止まる 船津登
- 11.06【中峠】ヤマガラ(2)
エナガ、シジュウカラの混群に
松本勝英
- 11.07【大井新田】チュウ(1)
葦原の上を飛ぶ 船津登
- 11.07【中峠】キキレイ(複数)
自宅近くの水路で
松本勝英
- 11.10【北新田】カラヒロ(群れ)
結構群れています。 畠中暁美
- 11.12【手賀の丘公園】アカハ(1) 初認
木に止る 船津登
- 11.12【手賀の丘公園】バン(2)
水辺で採食。幼鳥だった。 船津登
- 11.13【泉】オカ(1)
森の枯れ大木に止まる 鈴木静治
- 11.13【泉】ジョウビ(2)
森の中で鳴く 鈴木静治
- 11.15【北新田】クシギ(1)
水路
佐藤さなえ・松田幸保・畠中暁美他 7名
- 11.15【北新田】イツギ(1)
4号排水路
佐藤さなえ・松田幸保・畠中暁美他 7名
- 11.15【北新田】ハブサ(1)
金谷水門傍
佐藤さなえ・松田幸保・畠中暁美他 7名

- 11.15 【本町2丁目】イビトドリ(2)
 ビルの屋上のフェンス上にオス、メス
 間野吉幸
- 11.16 【手賀の丘公園】ハイカ(1)
 上空を飛び、高空でソアリング
 船津登
- 11.16 【手賀の丘公園】キクイタダキ(2) 初認
 杉の木の中で動く
 船津登
- 11.16 【大井新田地先上沼】カカモ(2)
 湖面で交尾をして、直ぐ分かれた
 吉田隆行
- 11.17 【別所】ヨシガモ(約30)
 池中で逆立ち採餌
 鈴木静治
- 11.17 【別所】ホトドリ(2)
 池の端の木陰を泳ぐ
 鈴木静治
- 11.17 【手賀の丘公園】シロハラ(1) 初認
 地上から飛び木に止る
 船津登
- 11.18 【片山新田】クイ(1)
 葦原の縁を鳴きながら移動
 飯泉仁・飯泉久美子
- 11.18 【片山新田】クハラアジサシ(2)
 水面を移動
 飯泉仁・飯泉久美子
- 11.18 【箕輪新田】オジュリン(2)
 葦原の中で鳴き声
 飯泉仁・飯泉久美子
- 11.19 【手賀の丘公園】トビ(1)
 上空を飛ば
 船津登
- 11.19 【片山新田】ノスリ(1)
 電柱に止る
 船津登
- 11.19 【戸張新田】チョウゲンボウ(1)
 鳴きながら飛んでいた
 吉田隆行
- 11.20 【手賀の丘公園】アリスイ(1)
 柳の木に止る
 船津登

■今回寄せられた鳥の全種名■

アオサギ、アオジ、アカゲラ、アカハラ、アジサシ、アマサギ、アリスイ、イソシギ、イソヒヨドリ、ウグイス、ウミネコ、エゾビタキ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオバン、オカヨシガモ、オシドリ、オナガガモ、カイツブリ、カケス、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、ククイタダキ、キジ、キジバト、キセキレイ、キビタキ、キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、クロハラアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コクマルガラス、コゲラ、コサギ、コサメビタキ、コブハクチョウ、シギ s p、シジュウカラ、シメ、ジヨ

ウビタキ、シロハラ、スズガモ、スズメ、セグロカモメ、セグロセキレイ、セッカ、センダイムシクイ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、タマシギ、チュウサギ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツツドリ、ツバメ、トビ、ノスリ、ノビタキ、ハイイロチュウヒ、ハイタカ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、ハヤブサ、バン、ヒクイナ、ヒタキ s p、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、フクロウ、ホオジロ、ホシハジロ、マガモ、ミサゴ、ミミカイツブリ、ミヤマガラス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシガモ、ヨシゴイ 計 95 種
 <番外種>アイガモ、カワラバト、コジュケイ

■今回の投稿者の総投稿件数■

飯泉仁	279
飯泉仁・飯泉久美子	111
金子雅幸・船津登・桑森亮	29
金子雅幸・船津登・桑森亮	
・嶋崎省	45
古出洋子	2
佐藤さなえ・松田幸保	
・畠中暁美他 7 名	27
佐藤さなえ	
・畠中暁美ほか 10 名	30
鈴木静治	267
鈴木静治・船津登・間野吉幸	
・蒲田知子	19
鈴木静治・船津登・間野吉幸	
・池田日出男・古出洋子	
・嶋崎省	24
畠中暁美	3
船津登	143
間野吉幸	9
松田幸保	4
松本勝英	8
村井みとい	4
吉田隆行	19
総計	1,023

(弘實和昭)

【会員だより】(ab-yacho より)

【ジョウビタキの訪れ】

2018.10.26 古出洋子

10月前半は32℃の真夏日もありましたが、ここへきて急に秋らしくなってきました。昨夕、庭先でパタパタという音を聞きましたが、今日はっきりとジョウビタキを確認しました。確実に季節は進んでいることを実感しました。

【Re ジョウビタキの訪れ】

2018.10.26 松田幸保

私も昨日ジョウビタキを初認しました(我孫子市高野山)。テレビのアンテナ上でヒッヒッ、カッカッと発声していました、♀でした。

【秋本番】

2018.10.28 村井みとい

本日農免の柏寄りで300羽ほどのミヤマガラスが上空を通過して利根川の方向にいきました。今シーズンの初認です。また、場所は野田ですが、ジョウビタキ、アオジ、ツグミも先週に確認しました。

【Re 秋本番】

2018.11.02 松田幸保

昨日、我孫子市の中沼田(あけぼの橋と水道橋の間)でミヤマガラス20羽ぐらいの群れを確認しました。コクマルも混じっているようでしたが、まだ落ち着きませんね。

【Re 秋本番】

2018.11.10 松田幸保

埧入り前のミヤマガラスが、今年も我孫子自動車教習所近くの国道356沿いの電線に来ていました。中沼田に昼間いる集団と思われます、今夕はガストの前でした。

【Re 秋本番】

2018.11.11 畠中暁美

北新田で11月5日に田圃でミヤマガラス40羽位の群れに遭遇しました。ツグミはまだ見ていませんが・・・
10日には電研の斜面林でウグイスの地鳴きが聞かれました。
未だタゲリ、ツグミには出会えません。この時期カラヒワは結構群れています。

【中峠がやっと賑やかになってきました】

2018.11.07 松本勝英

10数日前から、近くの水路にキセキレイが来ています。彼らに誘われたのか、昨夕の降雨直前、エナガ、シジュウカラの混群に2羽のヤマガラを確認しました。ここ数年は、ヤマガラとは稀にしか会えませんでした。キセキレイは今期も「中峠の吉兆」の様です。秋季は寂しい中峠も、やっと賑やかになってきました。

【中峠にタゲリがやってきた！】

2018.11.16 松本勝英

関東は今期一番の冷え込みとの今朝10時過ぎ、いつもの愛犬の散歩にて、アオジとカワセミに続いて、タゲリを見ました。タゲリは3羽だけでしたが、いよいよ中峠も彩り始めました。

【関東平野でクイタダキが当たり年の様ですね】

2018.11.28 平岡考

クイタダキは、関東の平野部では毎年必ず見られる鳥じゃないと思いますが、この冬

の関東地方はククイタダキの「当たり年」のようです。

先週、知らない方ですがツイッターで、水戸のほうでククイタダキをあちこちで見ると書いている方がいたので、ほほうと思っていたところ、この連休中の、11/25の日曜日に、松戸市内の自宅近くの緑地でさっそく2羽、観察しました。

(これもいつも書いている「(1) 変わった鳴き声に気づく、(2) 分からない鳴き声が聞こえたらともかくねばって姿を見る、(3) 脅かさないように自分の動きに注意する」という見方のたまものです。今回もやはりまず(1)声で気づきました。一緒にいることが多いカラ類と声が似ていて難しいですが、小さな体に似合った細い「ツン、ツン、・・・」という声が出て、これはふだん聞かないと思って(2)探したら、ククイタダキが見られたものです。) 都内でも葛飾区、杉並区、中野区などの公園で見られているそうです。

【中峠でタシギ今期初認他】

2018.11.28 松本勝英

昨日(11/27) 昼前、いつもの水路で吉兆のキセキレイに会えた後、同じ水路の中州に佇むタシギを今期初認しました。

気を良くして、北新田まで足をのばしたら、こんどは、樹頂に止まるツグミを撮りました。これも今期初認です。チョウゲンボウ、ノスリ、タゲリ・・・至福の日になりました。

【Re 中峠でタシギ今期初認他】

2018.11.28 新堀正則

10/28の11:00頃、泉村新田でタシギ確認しています。だいぶ遅れてでスママセン。

【ツグミを初認】

2018.11.29 古出洋子

25日(日)千葉ニュータウン中央駅近くで行われた〈だんごまつり〉に参加した午後周辺探鳥をしました。調整池の東岸はカワウの糞で雪景色状態でしたが、ホシハジロ、キンクロハジロ、それにオシドリが樹下に動いていました。

キリスト教大学に入れて頂いたら奥の桜の木にツグミを初認。翌朝は我が家でも桜の木の天辺で鳴いていました。

会からのお知らせ

< 亀成川を愛する会探鳥指導 >

今年度も、亀成川流域の 里山散策シリーズ探鳥会へ協力し、参加された多くの市民の方々に当会会員が分担して探鳥指導を行います。別所谷津公園や調節池、別所緑地の園路を歩きながら、身近にひそむ小鳥や水辺を泳ぐ カモたちを探します。

日 時 2月3日(日) 9:30~12:00 雨天中止 (スタッフ集合は 9:00)

集合場所 牧の原地域交流センター駐車場 (印西市牧の原 3-1-2 牧の原小学校内)

お問合せ 当会事務局

< 「写真集 2018」 応募写真・動画募集 >

今年も「我孫子野鳥を守る会写真集」の応募写真・動画を募集します。この写真集は、会員皆様の傑作を会員間で楽しむと同時に、会員の撮影した写真・動画を写真データベースとして記録し、会の活動に役立てることを目的にしています。過去 11 回の写真集は会の活動に大きく寄与しています。今年度も編集を相良・北崎が担当いたします。

応募写真の条件、ファイル名、応募方法等はこれまでと同じです。

確認が必要な方は、担当相良 12/1 発信の配信メール を参照ください。

配信メールの受信ができない方は担当相良までお問合せください。

問合せ先：ab-yacho-dvd@abikoyacho.sakura.ne.jp

応募の締め切りは1月20日(日)です。担当相良まで作品をお送りください。

皆様の奮っての応募をお待ち申し上げます。初応募の方、大歓迎です。

なお、当写真集は、「2018年度当会活動の記録DVD」に収録され、4月の総会以降ご希望の会員の皆様に実費にて配布されます。写真集写真・動画応募者には無償にて提供されます。

<ホームページ運営委員募集案内>

当会では、ホームページ運営委員会で、ホームページの企画・運営を行っています。当会のホームページをより魅力的な、そして、役に立つホームページへ進化させてまいりたいと思います。そこで、会員の皆様よりホームページ運営委員を広く募集いたします。

- 会内外を問わず関心をお持ちの皆様に関係する役立つ情報をお届けできるホームページ
- 会員の皆様へ必要な情報を必要な形ですぐにお届けできるホームページ
- 手賀沼周辺の野鳥に関する様々な情報が得られるホームページ
- 美しい野鳥写真や動画を楽しめるホームページ
- 会員の素晴らしい作品の発表の場であるホームページ など

会員の皆様のご意見や、ご要望を反映したより素晴らしいホームページを目指します。

ご一緒に、ホームページの企画・運営に参加してみませんか？

コンピュータやパソコンの特別な知識は特に必要としません。

当会のホームページをより良くしたいとのお気持ちがあればどなたでも大歓迎です。

ご参加いただける方は、相良(下記連絡用アドレス)までご一報ください。

aym@abikoyacho.sakura.ne.jp

<新入会員紹介>

- ・柴山 勝 (練馬区在住)
- ・早坂 旭慈 ・家族会員 張 紋明 (我孫子市在住)
- ・ツェルメグ (モンゴル在住)

<ご寄附>

台湾・モンゴル歓迎会の集い有志よりご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます

ほーほーどり No. 266 (2019年1~2月号)

発行 2019年1月1日

発行人 間野吉幸

編集人 青木典子、古出洋子、小玉文夫、千葉洋、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台2-15-17 桑森亮 Tel: 04-7182-3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円 (大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)